

2018年9月18日 外部研修の意味・有効性について

※一言要約： 外部研修の意味は、日常ではない刺激を得ること。

「企業研修の目的」とは？

- ① 新たな知識・手法を身につける
 - ・世の中の流れ、技術の進歩、他社事例
 - ・現状把握・分析手法
 - ・専門知識、ノウハウ
- ② 受講者の考え方・行動を変える
 - ・自分の現状認識、分析
 - ・目的意識、自己実現、将来目標
 - ・やりがい、達成感、楽しみ
- ③ 組織力を高める
 - ・人間関係、ネットワーク
 - ・企業理念の浸透、組織風土の改善
 - ・リーダー人材の育成

※一般的には、個人の専門技術・技能を高める研修、会社の事業成果を高める研修（生産性、品質、リーダーなど）にも分類できます。

「外部研修の意味・有効性」とは？

- ① 理論や手法などの基本は、専門書や情報でその気になれば調べることは可能ですが、その手間を省き、代行してもらえます。併せてそれらに関連付けて、**講師の経験則やノウハウも教えてもらえる**。また、社員が学習するキッカケを与えることができます。【機会づくり】
- ② 受け身の受講では実質効果極めて少なく、教科書的内容を説明してもらっただけで終わる。**受講者の意識・考え方が変わる**ことが、一番重要で、これがないと習得には至らない。【やる気の醸成、動機付け】
- ③ 実習型研修の導入により、単に講義を受講するだけでなく、第3者目線の指導による、自分の業務に応じた**課題・実習を行う(少なくとも考える実習)**ことにより、**成果の体験が可能**になる。【出来たという体験】